

一 般 質 問 通 告 書

令和 8 年 7 月 3 1 日

議 会 議 長 様

議席番号 1 3 番

議員氏名 伊 藤 美佐子

質 問 事 項	質 問 要 旨	指 定 答 弁 者
1. 流産・死産を経験された方等への心理社会的支援は	こども家庭庁では、主要分野ごとの重要課題と取組方針の中で、少子化対策及びこども・若者政策の推進に対する取組として、産後ケア事業、新生児マススクリーニング、新生児聴覚検査や乳幼児健診など、母子保健対策や不妊症、不育症の相談支援が行われています。 その中に、流産・死産経験者への相談支援を行うことも盛り込まれていますが、特に、産後グリーフケア事業の町の取組について以下伺います。 (1) 町における流産や死産経験者の現状は。 (2) 流産・死産を経験された方等への心理社会的支援について、町の体制は。 (3) 東大阪市においては、産後グリーフケア事業を令和6年から取り組まれるとともに、民間団体等でも取り組んでいます。町において、「流産・死産を経験された方等への支援体制」を整備する考えは。	町長 副町長 健康支援課長 担当課長
2. 実効性の高い社会保障教育を推進するため、「社会保障ゲーム」等の体験型教材の導入を	社会保障制度は、国民の「安心」や生活の「安定」を支えるセーフティネットであり、「社会保険」「社会福祉」「公的扶助」「保健医療・公衆衛生」の4本の柱から成り立っています。子どもから子育て世代、高齢者まで、生涯にわたり人々を支える基盤です。 しかし、複雑化する現代社会において、困難を抱えた際に「誰に相談してよいかわからない」「民生委員・児童委員や行政の支援窓口を知らない」ために、適切に対処することができず、孤立やトラブルの深刻化につながる事例が	町長 副町長 教育長 福祉課長 学校教育課長 担当課長

7 月 3 1 日 午前 1 0 時 2 3 分 受理

質 問 事 項	質 問 要 旨	指 定 答 弁 者
3. 介護福祉特化のスケッターの活用調査は	少なくありません。 先日、久喜市にある「埼玉県女子自立更生センター」を地域の民生委員の方々とともに視察し、施設利用を経て自立された女性から当時の切実な体験談をお聞きしました。 「当時は民生委員の存在も相談先も知らず苦労した」という言葉からもわかるように、「困ったときに支援につながる知識や手段」を若いうちから身につける教育の重要性を痛感しています。そこで以下伺います。 (1) 中学生を対象とした公民や総合的な学習の時間等において、社会保障制度や「困ったときの相談先（民生委員・児童委員や行政窓口）」についての周知・教育は現在どのように行われているのか。 (2) 「社会保障ゲーム」等を通して主体的に学び、「助けを求めるスキル」を身につける実践的な教育の導入について、教育委員会としての考えは。 (3) 学校教育の場に、地域の民生委員・児童委員や町の福祉部局が関わり、本ゲームや体験談を交えた出前講座・出前授業を行うなど、地域と学校が連携した「自分事として捉える福祉教育」を展開する考えは。 昨年１２月定例会の一般質問において、介護福祉施設にスケッターの活用を提案しましたが、「調査研究する」との答弁でした。 現在、第１０期介護保険事業計画を作成中ですが、介護サービス提供事業所調査結果を踏まえた、今後の町の方向性を伺います。	町長 副町長 高齢介護課長 担当課長